

京都薬科大学 第1回OSCEトライアルの実施

OSCEトライアル準備委員会委員長 佐藤 隆司

オスキー

本学では初の試みであるOSCEトライアルが8月30日（水）に行われ、午前のテストランに引き続き、午後1時から4時半まで本番のトライアルが実施されました。OSCE(Objective Structured Clinical Examination)は、6年制カリキュラムの中の5年次に行われる共用試験の一つで、学外長期実務実習に必要な技能や態度を評価する客観的臨床能力試験のことで、す。トライアルは、4年後の2010年の本格実施に向けてのシステムの検証と構築のために実施するものです。日本薬学会OSCE内容・体制委員会が実施する全国規模のトライアルとしては、すでに東京薬科大学と武庫川女子大学薬学部で2回実施されましたが、引き続き本格実施までの約4年間に全国のいくつ

かの大学で実施される予定です。本学での今回の実施はこの計画のもとに実施されたものです。

本学のトライアルの最も大きな特徴は、2課題を1ステーション（ステーションとは試験実施場所のこと）で実施可能かを検証することです。基本的には1課題を1ステーションで実施するとされていますが、1ステーションで2課題を試験できれば、ステーション数の減少と、受験学生の移動に要する時間の短縮により、試験全体の所要時間を短くすることができます。このことは、本学のような大人数の学生を対象とする場合に不可欠な検証となります。また、2課題を連続して行うことは実際の業務のながれに即した試験内容を構築しているとも言えます。OSCEの課



散剤を調製する様子



軟膏剤を調製する様子

CONTENTS

京都薬科大学第1回OSCEトライアルの実施1~2
定年退職のご挨拶2~3
卒業生からのメッセージ3
2006年度オープンキャンパス開催4~5
特集 早期体験学習6~10
広大な太平洋を臨むロングビーチにて11

Library News	12
クラブだより	13
新聞記事紹介	14
受賞	14～15
お知らせ	15～16
京華会だより	16

題としてはすでに6課題が設定されており、このうち本トライアルでは、薬剤の調製として散剤と軟膏剤の2課題と、調剤鑑査と情報提供の2課題をそれぞれ1ステーションで実施しましたが、接遇と無菌操作の2課題は今回は割愛しました。さらに、今回のトライアルでは、従来のトライアルでの情報を基にした評価表・評価マニュアルの見直しと、薬袋の作成という新しい項目も追加しました。

当日は、日本薬学会OSCE内容・体制委員会の先生、評価者として近畿の大学および薬剤師会と病院薬剤師会の諸先生、模擬患者等、総勢50名近い皆様の協力を得るとともに、本学からも教員、事務職員、大学院生の50名あまりの人たちに協力していただきました。この体制のもとに、近畿各大学から派遣していただいた27名の受験学生に対してトライアルを実施しましたが、大きなトラブルもなく無事終了し、日本薬学会OSCE内容・体制委員会の先生から一定の評価を得ました。ここに皆様のご協力に感謝し、心よりお礼申し上げます。

実際に本学でOSCEを実施する場合には400人近い学生を試験する必要がありますが、今回のトライアルのような100人近いスタッフでわずか27名の学生を試験する体制での実施は無理があります。今後は多人数の学生を対象とする、より実践的な内容のトライアルを本学独自で実施検証することが必要と思われます。



調剤鑑査の様子



情報提供の様子

最後に、本トライアルの無事の終了は、本学臨床薬学教育研究センターの横山教授、橋詰助教授をはじめとした諸先生の万全の準備によるものであることを付記します。

(本トライアルの記事が9月6日付「薬事日報」の一面に掲載されております)



定年退職のご挨拶

薬品分析学教室

教授 北村 桂介

去る6月27日、私は65歳の誕生日をもって京都薬科大学を定年退職しました。約33年間の長きにわたって無事勤め上げることができたのも、本学の諸先生方、職員の皆様方のおかげと深く感謝しているしだいです。

私は1973年10月1日に京都薬科大学に着任しました。当時、京薬は全国薬系大学に先駆けて生物薬学科を増設して3学科制を敷き、そのための教員の拡充ということでした。私は大学院時代にガスクロマトグラフィーと紫外吸光分析を主たる研究手段とし、その後NMRにも携わることになり、これらの経験から機器分析学を担当する薬品分析学Ⅱ教室の講師としてお召抱えいただきました。また、大型電子計算機も利用しておりましたので、新たに開講する情報科学も分担することになりました。

私が着任した時は8号館はまだ完成していなくて、図書館2階のT22講義室で仮住まいの3ヶ月を過ごしましたが、翌1974年の正月早々、塗料の匂いの残る新築の8号館3階へ引越ししました。以後約33年間、そこが私のホームグラウンドとなりました。振り返ると、様々なことが思い出されますが、常に頭に浮かんでくるのは、分属学生や大学院生諸君と過ごした研究生生活のことです。私は分属学生にも一人一人個別に研究課題を与え、教室生諸君一人一人と研究の進め方や結果について話し合いました。真摯に学究を深めていくことの喜びを教室生諸君と共有できたと思っています。

30年以上も昔、耳栓をしながら超音波装置を用いて分属学生と一緒にリポソームの作り方を模索したこと、リポソームの原料となる卵黄レシチンのカラムクロマトグラフィーによる精製法を多くの分属学生と試行錯誤で確立したこと、また、微分分光法では、電気に強い分属学生に文献を頼りに電気微分計を作ってもらったこと、パソコンの時代になり、微分スペクトルを得るシステムを何人もの院生、分属学生と共に開発したこと、医薬品の¹³Cラベル化に

チャレンジし成功させたことなど、薬品分析学教室の研究テーマの基礎となった多くの手法、手段の開発を教室生と一緒に実践したことが無上の楽しい思い出となっています。

本年4月から6年制がスタートし、薬学教育の方向、システムが大きく変わりつつあります。しかし、大学が、自分の力を恃み、懸命に伸びようとする学生諸君とスタッフが共に研鑽できる唯一の場であることは変わらないと思います。京薬にはアカデミックな雰囲気が溢れている。とかく短兵急な結果が要求される中であって、力もあるが心のゆとりもある、そういう人材が育つ京薬を保ち続けて欲しいと思っています。

最後になりましたが、KPUニュースの読者の皆様のご清祥、ご活躍を心よりお祈りします。

2007年度大学院入学選考結果

2007年度大学院博士前期課程・修士課程及び博士後期課程（夏季募集）入学選考を8月25日（金）に実施し、8月31日（木）に合格発表を行いました。

薬学専攻博士前期課程・臨床薬学専攻修士課程の志願者は合わせて89名、合格者は83名、博士後期課程（夏季募集）の志願者は7名、合格者は7名でした。

別に2006年度博士後期課程（2006年10月入学）の志願者は4名、合格者が4名でした。

■大学院博士前期課程・修士課程の志願者数・合格者数

単位：人

	一般	推薦	他大学	計
志願者数	61	22	6	89
合格者数	58 (Y47 R11)	21 (Y15 R6)	4 (Y4)	83

Y：薬学専攻 R：臨床薬学専攻

「卒業生からのメッセージ」

とりあえず、やってみませんか！？



佐々木 真人

平成14年学部卒
平成16年博士前期修了(薬品化学教室)
特定医療法人 景岳会 南大阪病院
薬剤科 病院薬剤師

みなさんこんにちは。私は薬学専攻修了後、地域密着型の総合病院に就職し、病院薬剤師として「あっ！！」という間に2年と半年が過ぎようとしています。現在、基本的な業務として午前中は患者さんの薬の調剤を行い、午後は病棟で服薬指導を行っています。2年も経つとその他の様々な仕事が割り当てられてきます。私は当院でDI (Drug Information) ニュース担当者として、毎月、薬や病気に関して分かりやすく解説したもの（ネタ探しが大変！）や、薬の副作用情報などをパソコンにて作成し病棟、医局、検査科、…等へ配布しています。その他に、癌化学療法チームの一員として抗癌剤が適正に使用されているか確認したり、院内特殊製剤の調製や薬の発注・在庫管理などなど、盛りだくさんです。

沢山の仕事をこなすというのは、正直、大変なエネルギーを要するものです。しかし、DIニュースを作成して、解り易い、勉強になると言ってもらえたり、処方箋の内容で間違いに気づき医師へ連絡し、

処方内容を変更してもらえた時は、「ヨシッ！」と自己満足。いずれにしても、医療へ貢献できた！と非常に大きなやりがいへと繋がり、嬉しいものです。

今は病院薬剤師として臨床の現場で活動していますが、学部生の頃、実は病院薬剤師とは全く別の研究者になりたく（しかも有機合成）、大学院に進学しました。しかし、大学で実験を重ね、論文を沢山読んでみると、臨床現場での薬の使い方や患者さんとの触れ合いに興味を持ちだし、気付いた頃には病院薬剤師に向かって歩み出していました。学部生の病院実習では、正直、「研究職に就くつもりやから関係無いやん〜」という浅はかな考えが心に少しありましたが、どうせやるなら徹底的にやろうという一心で病院実習に挑みました。しかし今となつては、この一心が自分自身へ大きな力となりました。この事を通じ、学生を経て社会人になった今、どんな事でも必ず苦勞が自分へプラスとなつて返ってくると痛感しました。学生の頃、大変だった実験は今となつては直接的に関係ないですが、プロセスの構築力、判断力、考察力の向上に繋がりましたし、趣味の写真撮影も、腕を磨こうと構図バランスを必死で研究していましたが、結果として、DIニュース作成時のレイアウトを考慮する際に非常に役に立っています。

みなさん、苦勞をして下さい！自分には関係ないと言わないで下さい！！勉強でも、趣味でも、アルバイトでもいいです。とにかく騙されたと思って、一心になって下さい。必ず後で、何かの形で自分の力になりますよ。ガンバレッ！

2006年度オープンキャンパス開催

入試課

8月5日(土)、6日(日)の2日間、オープンキャンパスを開催しました。

両日で、昨年度を約70名上回る約970名の参加者があり、本学に対する関心の高さがうかがえました。本年度も、学長挨拶、大学紹介、ミニ講義を愛学館A31、A21講義室で同時に実施した後、体験実習と研究室見学を参加者の希望に応じて実施しました。両日ともに、午前と午後に分かれて、同内容のプログラムを実施しましたが、学長挨拶、大学紹介、ミニ講義は、とても盛況で、特に6日(日)は、両講義室が満席になり、椅子を追加しなければならぬほど参加者で超満員になりました。参加者からは、大学紹介については、「詳しくわかった」、「わかりやすかった」、ミニ講義については、「面

白かった」、「興味が持てた」などの声がたくさんありました。また、研究室見学については、「設備が整っててますます惹かれた」、「いろいろな研究室が見られて良かった」、体験実習については、「楽しかった」、「面白かった」などの声が多く、プログラム全般にわたって大変好評でした。

相談会では、入試広報委員、事務職員、在学生が相談に応じました。参加者からは、「知りたいことがわかった」、「熱心に答えてくれた」、「在学生がやさしかった」、「親切だった」などの好印象の感想を多くいただきました。

今後も、より一層充実したオープンキャンパスにしたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。



受付



大学紹介

ミニ講義

8月5日(土) 午前・午後 長澤助教授(衛生化学教室)
「衛生化学：生命を衛るための化学」

8月6日(日) 午前・午後 橋本助教授(薬化学教室)
「自然現象解明のための科学—カバの汗はなぜ赤い?—」

体験実習

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 身のまわりのフリーラジカルを測る | (代謝分析学教室) |
| 2. 室内環境測定 | (公衆衛生学教室) |
| 3. DNAを観る | (生化学教室) |
| 4. 糖尿病を診断する | (病態生化学教室) |
| 5. 菌が動く、走る、光る! | (微生物学教室) |
| 6. 切っても切ってもプラナリア | (病態生理学教室) |
| 7. アレルギーとアレルギー病態モデル | (薬理学教室) |
| 8. 薬が効くわけ | (薬物動態学教室) |
| 9. メンソレータム軟膏づくり | (臨床薬学教育研究センター) |



メンソレータム軟膏づくり

研究室見学

グループにわかれて研究室や施設を見学した。

相談会

教職員、在学生が相談に応じた。

食堂開放

飲み物を用意。

2006年度 オープンキャンパス アンケート集計結果

参加人数

	受験生	付添者	合計	昨年の数字
8月5日（土） 午前	232 名	72 名	304 名	307 名
午後	83 名	38 名	121 名	150 名
計	315 名	110 名	425 名	457 名
8月6日（日） 午前	216 名	91 名	307 名	264 名
午後	165 名	69 名	234 名	176 名
計	381 名	160 名	541 名	440 名
合計	696 名	270 名	966 名	897 名
昨年の数字	680 名	217 名	897 名	

Q1 オープンキャンパスを何で知りましたか？

（複数回答）

No	回 答	件数	(全体)%
1	インターネット	240	54.3
2	高校の進路指導または資料	148	33.5
3	チラシ	71	16.1
4	受験雑誌など	62	14.0
5	家族または親戚	32	7.2
6	新聞	5	1.1
7	予備校の説明会	2	0.5
8	その他	5	1.1
9	無回答	3	0.7

Q2 参加された目的や動機は何ですか？

（複数回答）

No	回 答	件数	(全体)%
1	キャンパス・校舎など施設・設備の確認	338	76.5
2	入試情報の確認	224	50.7
3	実験・研究などの施設・設備の確認	203	45.9
4	キャンパス周辺の街並みや環境の確認	157	35.5
5	授業内容の確認	108	24.4
6	研究内容の確認	101	22.9
7	薬学6年制の確認	98	22.2
8	薬剤師国家試験対策についての確認	98	22.2
9	大学の教育理念・方針、将来構想の確認	93	21.0
10	就職状況や進路指導の確認	87	19.7
11	クラブ・サークル活動などの確認	51	11.5
12	病院・保険薬局実習の確認	44	10.0
13	学費・奨学金・アルバイトなどの確認	40	9.0
14	在学生の確認やコミュニケーション	28	6.3
15	教職員の確認や相談	19	4.3
16	学生相談・サポート体制の確認	17	3.8
17	その他	1	0.2
18	無回答	4	0.9

Q3 受験する場合、どの方式で受験されますか？

（複数回答）

No	回 答	件数	(全体)%
1	B方式（本学独自）	249	56.3
2	推薦入試	156	35.3
3	検討中	134	30.3
4	A方式（センター前期）	133	30.1
5	C方式（センター後期）	41	9.3
6	無回答	6	1.4

Q4 オープンキャンパス全体の感想はいかがでしたか？

No	回 答	件数	(全体)%
1	とても良かった	258	58.3
2	まあ良かった	162	36.7
3	あまり良くなかった	2	0.5
4	全く良くなかった	0	0.0
5	無回答	20	4.5
合 計		442	100.0

Q5 オープンキャンパスに参加されて、京都薬科大学の印象や評価は変わりましたか？

No	回 答	件数	(全体)%
1	かなり受験意欲が高まった	188	42.5
2	少し受験意欲が高まった	182	41.2
3	変わらなかった	54	12.2
5	少し受験意欲が減退した	3	0.7
6	かなり受験意欲が減退した	0	0.0
4	無回答	15	3.4
合 計		442	100.0

早期体験学習

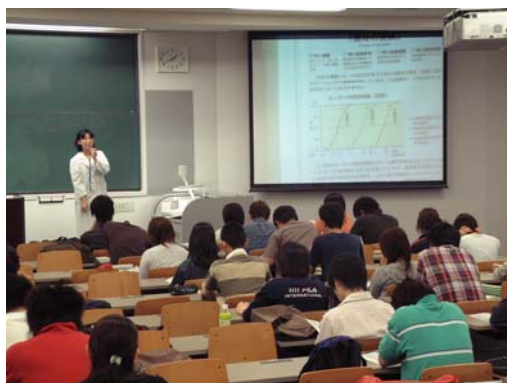
今春よりスタートした薬学教育6年制のカリキュラムに、早期体験学習が加わりました。これは、将来の薬剤師の卵として、早期に病院や薬局の薬剤師、小・中学校などの保健衛生を担う学校薬剤師、製薬会社での研究・開発・情報提供など多岐にわたる薬剤師の職能を垣間見（体験し）、学習に対するモチベーションを高めようとするものです。

京都薬科大学では、本学独自の早期体験学習を構築すべく、検討小委員会において種々検討を加えました。そこで、まず薬剤師のまえに医療人であることを自覚するため、医療人として身につけるべき“生命の尊厳”、“やさしさ、おもいやり”など人間性を涵養する体験などを計画し、全教員の担当のもと「救命応急手当」・「ハンディキャップ体験」・「薬害被害者の生の声による講演会」・「病院・薬局見学」（以上4項目は前期履修済）、「研究室見学」（後期履修）を実施することにしました。これらを通じて、個人個人の“医療人としての薬剤師の遊び、理想像”を大きな真っ白なキャンバスに描き、これから6年間、ヒトにやさしい、信頼される薬剤師を目指して研鑽を積む第一歩を踏み出すことを願っています。以下に、その履修状況の概要を記します。

救命応急手当

救命応急手当の実施にあたり、昨秋から半年間で22名の教員が応急手当普及員認定証（京都市防災協会の3日間の講習を受講）を取得し、また、7体の蘇生法教育人体モデルと14組のAED（自動体外式除細動器）トレーナーセットを購入し、本演習の実施に備えました。そして、この4月より新入生を6班にわけ、「救命応急手当」の演習（約3時間）をスタートしました。

この演習では、医療系の大学であることを意識し、序論として臨床薬理学教室の中田教授、小原助教授による生理・解剖学的な講義（含、心電図の見方）、その後、山科消防署の救急救命士2名の立会いのもと応急手当普及員の指導による心肺蘇生法・AEDの使い方などの演習を実施しました。



臨床薬理学教室の教員による講義の様子

この演習を履修することにより、“生理・解剖学的知識”（「心臓・肝臓の位置を再確認した」、「心臓停止後には約3分で、呼吸停止後には約10分で50%が死亡し、さらに、心臓が停止して血液の循環が途絶えると、脳は約3分で、心臓は約10分で元の状態に戻らなくなるため、3分以内に心肺蘇生法を開始しなければ、心臓が再び動き出しても脳死状態になることがある」）、“心肺蘇生法・AEDの使い方などの手技”と共に、最も重要な“生命の尊さ、脆さ”も肌で感じ（「人の役にたちたいと心から思った」）、新入生にとり大変意義のある演習となったようです（「履修後のアンケート」より）。



警備員室のAED設置表示

この演習が“医療人としての薬剤師”を目指す第一歩となり、これから6年間、幅広く研鑽を積まれることを願っています。また、本学は山科御陵に移って75年、地域に充分密着した現在、さらに地域社会に貢献する医療系の薬科大学として、この4月には本校地と南校地の警備員室（校門のすぐ傍）に各々1台のAEDを設置しました。学内外で突然倒れた方を見かけた場合、早急に警備員室へ連絡してください。尊い生命を守るために役立ちたいものです。

（早期体験学習検討小委員会委員 教授 金澤治男）

救命応急手当の講習を受けて

1 年次生 柴田 和哉

今回の救命応急手当の講習では人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの操作方法などを学びました。講習を受ける前にもテレビなどで行っているのを見ると、思ったよりも簡単に出来ると思っていました。しかし、実際に習ってやってみるととても難しく、例えば人工呼吸では息の吹き込む量が多すぎても少なすぎてもダメで、心臓マッサージでは力の加減や押す位置が難しく、間違えた位置を押したり力加減を間違えると赤いランプが点灯し、周りで皆が見ているので少し恥ずかしかったです。その後、講習中にたくさん練習させてもらったので、だいぶ正しく行うことができるようになりました。でも、いざ人形ではなく本物の人間相手になると的確に出来るかは不安です。また、AEDの操作は前の二つとは違い思ったより簡単でした。というのは、AED自体に音声によるオペレーションが付いているため、音声に従って行っていけば出来ました。AEDという存在をこの講習を受けるまで知りませんでした。しかし、この講習後公共の場などを注意深く見てみると意外にも多くの場所に設置されていることがわかりました。現在AEDの設置数も増えてきていると聞きました。実際AEDがあるか無いかで死ぬか生きるかという状況もあるため、AEDが増えてきているというのは素晴らしいことだと思います。一生に一度あるかどうかかわかりませんが、もし自分がそのような生死に関わるような現場に居合わせたら、何も出来なかったということにならないよう、今回習ったことを思い出して焦らず落ち着いて正確に対処できたらいいなと思います。

これから薬剤師を目指していきますが、今回の救命応急手当は人の命を救う行為で、また同様に薬剤師になって薬を扱うというのも多くの人の命に関わることです。応急手当ではどれだけ早く手当をするかも大事ですが、やはり正確にやらなければいけないと思いますし、薬を扱うことも正確に扱ってこそ人の命を救えると思います。また、正確に扱い、

救えるようになるために、これから薬剤師になるための勉強も人の命に関わることを自覚して努力していきたいと思います。



講習（心肺蘇生法）の様子

ハンディキャップ体験

今年度より実施されることになった「早期体験学習；ハンディキャップ体験」について、その主旨と内容を紹介します。

今年度より薬学6年制が施行され、本学は本格的な薬剤師教育を目標とすることになりました。卒業後は医療従事者になる薬学生にとってハンディキャップを持った全ての人に対し、いかに関わるかは基本的に学ぶべき教養と考えます。子ども、お年寄り、病気や怪我、障害（機能障害、能力低下、社会的不利）を持っている人、全てにその人格を尊重し、かつ受けている不利をなくすお手伝いは社会全体の課題でもあります。

今回は、時間的制約も有って視覚障害と肢体不自由（車椅子）のみの内容で実施しました。テキストとして、滋賀県発行の「ぬくもりのまちハンドブック」を抜粋して用いました。

1、アイマスク着用による視覚障害体験

見えないとき何が困るのか、難しいのかを自身で体験することにより、そのような人たちにどう対応すればよいか考える。また介助される不安の体験、介助する難しさを学ぶ。

2、車椅子体験・介助

日常生活において車椅子で自走できる場所がいかに少ないかを知る。2～3cmの段差、ドア、溝蓋、スロープなど介助無しで操作してみる。スロープや階段での介助（3人法、4人法）を体験する。

3、車椅子バスケット

車椅子の操作練習とスポーツに使われる車椅子を体験する。

上記の体験を通して、自分に何ができるかを考えるとともに人間愛に満ちた医療従事者になるべく努力してほしいと思います。

(早期体験学習検討小委員会委員 教授 浜崎 博)



車椅子体験の様子

**「何かお手伝いしましょうか」という一声を
1 年次生 久保 美和**

今年からはじまった早期体験学習を通して前期だけでも、救命応急手当、薬害による被害者の方からの講演、そしてこのハンディキャップ体験という三つの貴重な経験をさせていただきました。私は、この中からハンディキャップ体験についての感想を述べてみたいと思います。

ハンディキャップ体験ではまず、目隠しをしながらの階段の上り下りや細く狭い通路を歩くという体験と同時に、目の不自由な方に対するお手伝いの仕方を教わりました。目が見えないということは、一歩先にどんな危険が待ち受けているのか全くわからない恐怖の連続だということを、身をもって知ることができました。また逆に、誘導することの難しさも初めて知りました。目の不自由な人に「あっち」「こっち」「あとちょっと先」と言っても、それでは相手には分かってもらえないのです。「後1メートル歩くと…」や「時計の11時の方向に看板があるから気をつけて」と具体的に言わなければ、彼らは恐怖から一歩踏み出せないのです。それに、周りの景色を伝えることも必要だと知りました。



アイマスクとガイドロープを用いた
ジョギングの誘導

また、この授業では車椅子に乗って坂道や段差、バスケットボールをすることも体験できました。偶然にもこの日は少し雨が降っており、私たちは車椅子の人が雨の日街へ出るのがどれほど困難なことかを体感できました。また、バスケットボールというスポーツを通して、普段何とも思わないゴールがとても高く感じたことから、車椅子に乗っている人たちと自分たちとの間に、その行動範囲の高さの差を実感することができました。自分たちが普段当たり前だと思ってしまうことが、その高さにあるために彼らには大変困難になっている、ということがこの世の中にはたくさんあるのです。こういうことは自分の身体で感じないと分からないことかもしれません。本当により経験になったと思います。



車椅子でバスケットボールを体験

さらに今回の授業を振り返ることで、私は高校時代に友人が足を怪我して松葉杖をついて生活していた頃のことを思い出しました。彼女とはとても仲が良かったので、階段もトイレに行くのも常に私が一緒にいて手伝っていました。足が治ってから彼女は私に色々とお礼をしてくれたのですが、それは、あんなに仲の良い友人でさえも私に「生活の手助けをしてもらっている」と日々気にしていたからでしょう。まして他人ばかりの社会生活ではますます彼らから手伝ってほしいとは頼みにくいのではないのでしょうか。そんな時「何かお手伝いしましょうか」という一言をかけること。とても簡単で、でもなかなかできなかったこの行為の大切さを、そしてその後も正しく手伝うためのマナーやルールを、この授業で教えていただいたと思います。

薬害被害者の 生の声による講演会

全国薬害被害者団体連絡協議会の増山ゆかりさん（いしずえ所属）に、ご自身のサリドマイド被害も含め、ご講演「薬害の原因は薬だと思っていませんか？」をお願いしました。新入生は、この講演より多くのことを学び、考えたようです。新入生の生の声をレポートより一部抜粋し、この項目の報告とします。

- * 『薬害の原因は薬にあるわけではないんです。その薬を扱った人や扱い方に問題があると私は思っています』。そう繰り返し訴えていた増山さんの言葉には強い説得力がありました。増山さんのキュートな笑顔と出会い、現実感あふれるお話を聞けて、非常に参考になりました。6年後、というかこれからずっと、この講演会を胸にとどめて、忘れずにいようと思います。
- * 増山さんが繰り返し言うておられたことは『薬害を再び起こしてはならない』ということでした。薬を扱うことの責任の重さを改めて感じさせられた講演でした。
- * まず第一に患者のことを考えることができる医療人を理想としたいと私は思う。薬被連のスローガンのように『被害者にもならず、加害者にもならない。誰かを加害者にもしない』という言葉通りに、一人一人が協力して薬の効能や副作用をしっかりと調査し、もっと安全な医療社会を作り出していきたいと思った。治療環境を改善し、患者のことをしっかりと理解し、共感してあげられるような薬剤師を目指したいと、今回の講演を聞き終えて深く実感した。
- * これからの薬剤師は、やはり、人の病気を薬だけでなく、患者さんとのコミュニケーションをとりながら治していかなければならないと思いました。薬で病気は治っても、心の傷は治りません。実際、薬害等により治らない病気の人に出会った時、“治らないからそれで終わり”というのではなく、病気が治らないならば、心の傷を治す、という事も大切だと思いました。『人と向きあえる薬剤師』、それが患者さんに期待されていることであり、薬剤師の本来あるべき姿なのだと思います。
- * 講演会の最後に、これから薬剤師を目指す私たちに求めることは何かという質問がされたが、その質問に対する増山さんの答えがとても印象に残っている。『自分のしていることが正しいかどうか、見過ごすことのできないことは何か、など

の自分の意見をしっかり持つことは大切であるが、それ以上に“人として幸せになること”、そして“自分の力で生きていくことができるようになって欲しい”』の言葉に様々な苦しみ乗り越え、サリドマイドの被害者として生きてこられた増山さんの力強さを感じた。



増山ゆかりさんの講演会の様子

病院・薬局見学

病院・薬局見学は、薬剤師としての心構え、病院あるいは社会における薬剤師の役割について認識し、薬学部学生としての勉強意欲を高めることを目的とした。見学施設として病院薬剤部6施設、保険薬局12施設を選び、5月30日～7月4日の毎週火曜日の午後に実施した（一部未実施）。入学まもない時期に現場の臨場感を体験することは、将来像を捉える上で非常に参考になると考える。本学は早期体験学習を全学的なものとして捕らえ、全ての施設に引率教員を派遣した。また社会人として最低限守らなければならない常識や見学先が医療現場であることから医療人としてのマナーに関する導入講義を見学1週間前に行った。



医療人としてのマナーに関する導入講義

見学内容は、対象者が1年次生であることを考慮し、受入れ施設に具体的な提示はしなかったが、各施設とも独自の取り組みをしていただいた。例えば

病院では薬剤部の施設以外にも、検査部、放射線部、未熟児センター、NST（栄養サポートチーム）、外来化学療法部、災害備蓄センター等の見学が含まれていた。また保険薬局では、見学者を模擬患者と見なし、薬剤交付と服薬指導の実施や、介護制度、調剤過誤防止に対する様々な工夫、患者さんとのコミュニケーションの取り方等、現場でしか得られない貴重な体験をした。見学終了後のレポートから①実習前後で薬剤師に対するイメージが変化した、②薬剤師の役割や業務内容が想像以上に多岐にわたっていた、③薬剤師の仕事が生命に関する重要な職種であることを認識した、④理解できない言葉もあったが、現場の臨場感は体験できた、⑤自分も将来あのような薬剤師さんになれるのか不安である、⑥社会から期待される薬剤師になるためしっかり勉強したい、との感想があった。また参加した1年次生の95%以上が本見学は有意義であったと回答した。本年度は病院・保険薬局の1ヶ所だけを見学したが、来年度は病院と保険薬局の2ヶ所を見学し、両者の特徴と違いを経験出来るよう計画している。

（早期体験学習検討小委員会委員 教授 高山 明）



見学中の様子

薬局見学を終えて

1年次生 松田 唯

私は、早期体験学習の機会を利用して、京都市内の薬局へ見学に行きました。1階には受付と待合室があり、2階では薬の調剤が行われていました。初めに事前講義を受け、3人ずつに分かれて薬剤師の方に案内して頂きました。見学前に想像していたより、ずっと近代的な設備ばかりで、本当に驚きの連続でした。

患者さんの個人情報、管理者の記録が残るシステムの下で取り扱われます。また万が一の誤消去に備え、常に何重にもデータをバックアップし、厳重な安全管理がなされていました。1階から2階へと自動的に送られるカルテのバーコードを読み取り、処方すべき薬を把握し、薬剤師同士が連携して的確に

分担・調剤をしていました。バーコードで薬の期限切れチェック、充填チェック、記録出力も行えるので、薬品の管理は徹底したものでした。1人の患者さんの処方内容に対し、常に複数の薬剤師がチェックすることで、処方ミスの可能性は最小限に抑えられるのだと実感しました。また、複数規格がある薬品や調剤上注意を要する薬品の棚には貼り紙がしてあり、計数薬品の規格違い表示を明らかにしたり、調剤記録を保存し、患者さんの問い合わせに素早く応対できる態勢を整えていました。

完成した薬は、ベルトコンベアーで一階の受付に届けられます。受付のカウンターには磨りガラスの仕切りや、必要に応じて使う個室があり、プライバシー保護を前提にした、患者さんへのこまやかな配慮が感じられました。受付では、パソコンでの電子紙芝居やムービーによる、理解しやすい服薬指導のほか、薬剤師自身が、患者さんに投与する薬の詳細を素早く再確認できる検索システムも活用されていました。待合室には、大きな液晶モニターが幾つかあり、患者さんが有効に待ち時間を過ごせるよう工夫されていました。患者さんの年齢層に合わせて番組を放映するだけでなく、定期的に2階のカメラからの「実際に薬剤を調合している様子」がリアルタイムで放映され、とても感銘を受けました。薬剤師に必要なことは、薬に関する深い知識と生命に対する倫理観、そして患者さんとの信頼関係を築くことだと改めて実感しました。薬剤師の方々は、作業時には真剣な姿勢で取り組み、患者さんとの会話では明るく意思の疎通を図っていました。薬を受け取って笑顔で帰られる患者さんを見て、薬剤師を志望する思いが強まりました。

各々の設備に対し、詳細に説明してくださり、またこちらの質問にも快く回答して頂けて、充実した時間を過ごすことができました。今回の体験を十分に活かし、薬剤師を志す者としての自覚と責任感を持って、学んでいきたいです。

*



服薬指導中の薬剤師

広大な太平洋を臨むロングビーチにて

薬物治療学教室 D2 小谷 透

2006年5月17～19日、米国カリフォルニア州、ロングビーチにて4th International Symposium on Cell/Tissue Injury and Cytoprotection/Organoprotectionが開催されました。

ロングビーチはアメリカ合衆国カリフォルニア州南東部に位置し、これまでに、ハリウッド映画俳優 Nicolas Cageや女優Cameron Diazなど多数の有名人を輩出してきた港湾都市として知られています。人口は約42万人。恵まれた気候の条件と美しい海岸線のためリゾート地に開発されていて、20世紀に入ってから石油、航空産業などの都市として発展し続けています。ロングビーチはモダンな市内とゆったりした浜辺の風景を楽しめる静養地にぴったりのビーチであり、ボートセーリングを満喫できる場所でもあります。ロングビーチの海岸線5.5マイルに沿ってあるShoreline Driveでは初期ロングビーチの色褪せた雰囲気がまだ残っている地域もあります。

今回のシンポジウムは主催者であるSandor Szabo博士やAndrzej S. Tarnawski博士に加え、消化器分野で活躍しておられる多数の著名人が参加されました。薬物治療学教室からは竹内孝治教授をはじめ、天ヶ瀬紀久子助手、栗飯原永太郎院生と共に本シンポジウムに参加しました。天ヶ瀬助手、栗飯原院生、私の3人はポスター発表に加え、口頭発表の機会も与えられました。いずれの研究内容に対しても、他の研究者からの質問は活発でありました。私自身、英語での口頭発表は今回で4回目になりますが、未だ上手く話すことが出来ず、緊張しっぱなしでしたが、発表時間以外にも他の研究者から質問あるいはアドバイスを頂くなど大変貴重な経験をする事が出来ました。



(左端から) 天ヶ瀬助手、竹内教授、Marshall博士、栗飯原院生、筆者

また、本シンポジウムの特別講演者としてBarry Marshall博士が招待されていました。Marshall博士は、病理学者であるRobin Warren博士と共同で、ヘリコバクター・ピロリ菌を発見し、その革新的な研究功績が大きく称えられ、2005年のノーベル医学・

生理学賞を受賞しました。Marshall博士は様々な臨床実験や、自らをピロリ菌に感染、その後治癒させた実績により、胃潰瘍の誘因はストレスではなく、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染と関連があることを、理論に基づいて証明しました。また、Marshall博士は、ヘリコバクター・ピロリ菌を隔離・培養した功績が認められ、2002年に慶應医学賞を受賞しています。



Marshall博士と竹内孝治教授

今回の特別講演でMarshall博士は、ヘリコバクター・ピロリ菌に関する様々な知見に加え、ノーベル賞授与式の様子をビデオで見せてくださり、興味につかない、充実した内容でした。



発表中の筆者

学会最終日の夜、ロングビーチにある世界最大級の船舶、クイーン・メリー号で交流を深めるための夕食会が開かれました。ワインと料理に舌鼓を打ちながら、著明な研究者の方々と語り合い、夜が更けていくロングビーチの眺めは忘れられないものとなりました。

今回のシンポジウムに参加し、世界中の研究者達との討議が重要であることを肌で感じた学会であり、今後より一層の努力と研鑽が必要だと実感しました。

最後になりましたが、今回学会発表の機会を与えて下さいました竹内教授、また学会の参加にご配慮頂いた理事長、学長をはじめ、大学関係者の方々に深く感謝いたします。

京都薬科大学教育後援会寄贈図書

京都薬科大学教育後援会より下記の書籍を寄贈頂きましたので、ご利用下さい。

書 名	著 者 名 / 出 版 社
声に出して読みたい日本語	斎藤 孝[著]/草思社
君に読む物語	ニコラス・スパークス[著]/アーティストハウス
アインシュタイン150の言葉	ジェリー・メイヤー、ジョン・P・ホームズ/ディスカヴァー21
ビル・ゲイツの面接試験	ウィリアム・バウンドストーン[著]/青土社
世界の見る目が変わる50の真実	ジェシカ・ウィリアムス[著]/草思社
他人の10倍仕事をこなす私の習慣	和田秀樹[著]/PHP研究所
万物の尺度を求めて	ケン・オールダー[著]/早川書房
パズル・パレス	ダン・ブラウン[著]/角川書店
ダ・ヴィンチ・コード	ダン・ブラウン[著]/角川書店
スノードーム	アレックス・シアラー[著]/求龍堂
容疑者Xの献身	東野圭吾[著]/文芸春秋
狐笛のかなた	上橋菜穂子[著]/評論社
天使の梯子	村山由佳[著]/集英社
野ブタをプロデュース	白岩 玄[著]/河出書房新社
ナルニア国物語	C・S・ルイス[著]/岩波書店
けものみち	松本清張[著]/新潮社
ねじまき鳥クロニクル	村上春樹[著]/新潮社
神様のボート	江國香織[著]/新潮社
竜馬がゆく	司馬遼太郎[著]/文芸春秋
鬼平犯科帳	池波正太郎[著]/文芸春秋
姑獲鳥の夏	京極夏彦[著]/講談社
少年H	妹尾河童[著]/講談社
新宿鮫	大沢在昌[著]/光文社
氷点	三浦綾子[著]/角川書店
1リットルの涙	木藤亜也[著]/幻冬舎

他 101冊

書名リストは、図書館ホームページ (<http://libopac.kyoto-phu.ac.jp>) をご覧下さい。

図書館開館日程

10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

赤字が休館日です。開館時間は月～金曜日 9：00～18：00 土曜日 10：00～17：00 となります。

臨時に休館する事がありますので、図書館掲示板で確認して下さい。

ク ラ ブ だ よ り

ソフトテニス部

8月1日から4日にかけて、伊勢市営テニスコートにて関西薬学生ソフトテニス大会が行なわれました。団体戦は、男子優勝、女子8位という結果に終わりました。また、男子個人戦は、ベスト16に若杉・藪田ペア及び森本・野口ペア、ベスト8に清裕・柴田ペア、また3位に寺井・松岡ペア、2位に倉田・片岡ペアが入賞しました。女子個人戦は、上地・雲ペア、山本・柳ペアの2ペアがベスト16入りを果たしました。今回の薬連で幹部も交代し、新しい体制のもと、男子は今回の結果に甘んじる事のないよう、女子は来年こそは今回のような悔しい思いをしないよう、切磋琢磨してテニスに取り組んでいきたいと思っています。

卓球部

春の四薬（2006年6月）

男子団体戦優勝

男子シングルス優勝（西村良則）

3位（美濃孝俊）

男子ダブルス準優勝（美濃孝俊・植野由久）

3位（西村良則・伏見英晃）

女子団体戦3位

全日本薬学生卓球大会

男子団体戦ベスト4

女子団体戦ベスト4

女子ダブルスベスト4（池祥恵・森重由香）

今後の目標：西日本医歯薬学生卓球大会においてベスト4以上を目指し、練習に取り組んでいきたいと思っています。

ヨット部

私たちは毎週土曜日に琵琶湖で楽しく活動しています。今年は5/3～5/4と7/30にはレースに出場し、8/7より約2週間にわたって艇庫改修を行いました。

<今後の活動予定>

9/16・・・京薬会の方々とセーリング

9/17・・・OB戦

9/30～10/1・・・合宿（セミナーハウスにて）

その他、秋季医歯薬レースなどの大会にも出場する予定です。

また今年は、本学のOBの方が10/6～10/9に兵庫県で行われます「のじぎく兵庫国体」に奈良県代表として出場されます！

活動についての詳細は、こちらをご覧ください。

<http://parisian.hp.infoseek.co.jp/>

剣道部

全国薬学生剣道大会が、8/6に東京の明治薬科大学にて行われました。結果は、男子団体戦が準優勝でした。前年度、男子団体戦は優勝しており、2連覇を狙っていたのですが、決勝で代表者戦まで競りましたが、惜しくも明治薬科大学に敗れてしまいました。来年は優勝杯の奪回を狙って頑張ります。

また、関西薬学生連盟剣道大会が、8/20に我々京都薬科大学剣道部主管で行われました。結果は、男子団体戦で悲願の優勝をすることが出来ました。主管で忙しい中、部員全員で励まし合い、OB・OGの方々の応援もあり、勝ち取れたと思います。

夏の大会での結果をばねに、秋の関西医歯薬に向け稽古に励み、さらに技・力を充実させていきます。



管弦学部

いよいよ第34回定期演奏会が近づいてまいりました。それに伴い部員一同、熱の入った練習を日々行っています。

第34回定期演奏会

日時：12月2日（土） 開場・・・18:30

開演・・・19:00

場所：長岡京記念文化会館大ホール

曲目：ドボルザーク 交響曲8番ト長調

ハチャトゥリアン 組曲「仮面舞踏会」より

ロッシーニ 歌劇「どろぼうかかさぎ」序曲

年に一度のこの演奏会のために、春から頑張ってきました。一年間の想いが皆様に伝わるよう、心をこめて演奏いたします。たくさんの方のご来場をお待ちしております。また、来月はじめに開催されます京薬祭でも、ステージ発表、模擬店を予定しております。おなじみの曲を演奏いたしますので、ぜひお越しください。

管弦楽部についての詳細はこちらのホームページへ
<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kpuorche/index.html>

新聞記事紹介

アルツハイマー病治療薬の研究が 京都新聞に紹介される

木曾良明教授(薬品化学教室)らが行っているアルツハイマー病治療薬の研究について、京都新聞8月15日号に大きく掲載されました。記事には、アルツハイマー病発症のしくみや、木曾教授らが開発した化合物KMI-429の治療メカニズムなどが分かりやすく解説されています。社会問題となって深刻化しているアルツハイマー型認知症の治療薬として、KMI-429は「世界の耳目を集めており、実用化への期待は高い」と紙面には書かれています。



木曾教授(中央)を中心に薬品化学教室の研究者が認知症治療薬の開発をすすめている(京都府山科区・京都薬大薬学研究所・シニア研究センター)

原因タンパク質 生成を抑制

治療薬に挑戦

マウス実験成功 実用化に高まる期待

アルツハイマー病の原因とされているアミロイドβタンパク質の生成を抑制する化合物KMI-429の開発が、京都薬科大学の木曾良明教授らの研究チームによって進められている。この化合物は、マウス実験で効果が確認され、実用化への期待が高まっている。

京都新聞8月15日号

抗腫瘍化合物の研究結果が 京都新聞などに紹介される

林良雄助教授(薬品化学教室)らが行っている抗腫瘍化合物「NPI-2358」の研究について、京都新聞7月29日号及び日刊工業新聞7月31日号に大きく掲載されました。「NPI-2358」は新しい抗がん剤として期待されている化合物で、共同研究を進める米バイオベンチャー会社が米国で臨床試験を始める予定であると紙面で紹介されています。

京都薬大
グループ

がん細胞周囲の血管壊す化合物

抗がん剤に期待

京都薬科大学の林良雄助教授(創薬化学)らの研究グループは、がん細胞周囲の血管を壊す化合物を開発したと発表した。新しい抗がん剤として期待できるという。共同研究を進める米バイオベンチャー会社が米国で臨床試験を始める予定であると紙面で紹介されています。

林助教授らは、土壌中の微生物が作る天然化合物フェニラヒスチンの一部構造を変えた化合物を開発。投与するとチューブリンの繊維を断片化して新生血管が破壊され、がん細胞が死滅することを確認した。マウスなどの実験で確かめた。チューブリンは細胞分裂にも不可欠で、その機能を阻害することで、がん細胞の増殖を抑える抗がん剤に期待できるのではないかと話している。

京都新聞7月29日号

受賞

日本病院薬剤師会賞



臨床薬学教育研究センター

教授 黒田 和夫

平成18年日本病院薬剤師会各賞の選考委員会が平成18年5月20日に開催され、本学の黒田和夫教授が日本病院薬剤師賞を受賞しました。これまでの日本病院薬剤師会発展への貢献が評価されました。

授賞式は6月3日(土)日本薬学会長井記念ホール(東京・渋谷)で行われました。

BCSJ Award Article

論文名：Oxovanadium(IV)-Porphyrin Complex as a Potent Insulin-Mimetic. Treatment of Experimental Type 1 Diabetic Mice by the Complex [meso-Tetrakis(4-sulfonatophenyl)porphyrinato]oxovanadate(IV) (4-)

著者：Tapan Kumar Saha, Yutaka Yoshikawa, Hiroyuki Yasui, and Hiromu Sakurai*

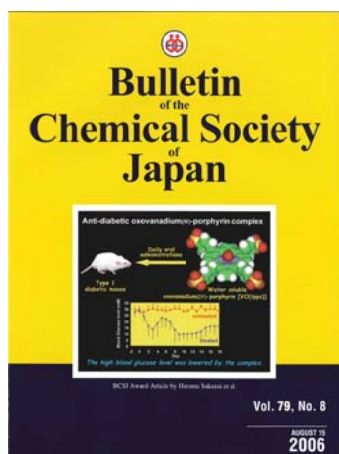
雑誌：Bull. Chem. Soc. Jpn. 79[8] 1191-1200 (2006)

日本化学会の欧文誌 Bull. Chem. Soc. Jpn. に掲載された上記の論文がBCSJ Award Articleに選ばれ、同号の表紙を飾りました。

インスリン様作用と血糖降下作用をもつ1型糖尿病治療薬の開発研究の中で見出されたオキソバナジウム(IV) - ポルフィリン錯体は、これまで知られていた錯体とは異なりユニークな構造をもっているのみならず、優れた糖尿病治療効果を示すことをはじめて明らかにし、さらに将来への医薬品開発の可能性を示した成果が高く評価されました。



BSCJ Award Article賞状



Bull. Chem. Soc. Jpn. の表紙

お知らせ

カルト集団「摂理」に注意してください

サークル活動に名を借りた、韓国発祥のカルト集団「摂理」の被害が盛んに報道されています。学生には、学内掲示板等で随時注意を喚起していますが、ご家庭におかれましても十分注意をするようご指導をお願い致します。

「摂理」に限らずサークル活動と称して会員を募る不審なグループも数多く存在しておりますのであわせてご注意をお願い致します。

また、最近学生の実家へ学生課や教務課などと称し、「下宿の住所」や「携帯電話の番号」を聞き出そうとする不審電話の報告が寄せられています。本学では、学生の個人情報に関するこのような問い合わせは、一切行っておりません。

不審な情報等がありましたら学生課まで是非ご連絡下さい。

連絡先： 学生課 075-595-4614 (直通)

第4回文化講演会

京薬論集刊行会主催の文化講演会を下記の通り開催いたします。

今回は先ほど開催されたワールドカップ・ドイツ大会を中心にワールドカップの魅力とグリム童話のあまり知られない一面についてお話いただきます。皆様のご来場をお待ちいたしております。

日 時 : 11月4日(土) 14時~16時ごろ

場 所 : 京都薬科大学 愛学館A31

(愛学ホール)

学外講師 : 辻浅夫(京都外国語大学教授)

演 題 : 「ワールドカップに魅せられて」

学内講師 : 桑形広司(本学助教授)

外国文学、ドイツ語担当)

演 題 : 「大人はグリム童話を

楽しめないのか」

入場無料

京都薬科大学京薬論集刊行会

2006年度京薬祭迫る！！

今年も、京薬祭の開催時期が近づいてきました。

例年以上に素晴らしいイベントとするため、実行委員会スタッフが丸となり、多忙な学生生活の合間を縫って準備に奔走しております。

多数の方にご参加いただきますよう、ご協力をお願い致します。
(学生課)

<実行委員長より一言>

昨年と同様、本年も初日に体育祭を行います。

本年は例年と異なり特別企画としてお笑いライブ(よしもと)を予定しております。

子供から大人まで、幅広く楽しんでいただけるような企画を用意して、皆さんのご来場をお待ちしております。

期 間 11月3日(祝・金)～11月5日(日)

※ 11月3日は体育祭

メインテーマ ALL ね ONE

ALL FOR ONE, ONE FOR ALL

サブテーマ 1人1人が主役の学祭へ

主な企画内容 フリマ・バザー、健康相談、福引、カラオケ、クイズ、KPU-1、お笑い(シャンプーハット、チュートリアル、ジャンクション) 他
※当日、出演者の変更になる場合があります。



京薬祭実行委員会

2006年度卒業式・学位記授与式(前期)及び 2006年度大学院博士後期課程秋季入学式

9月29日(金)午後3時30分から愛学館7階の第1会議室において、2006年度卒業式・学位記授与式(前期)を執り行いました。

課程博士1名、論文博士1名、修士1名に学位記(博士、修士)、学部薬学科2名、同製薬化学科6名、同生物薬学科6名に卒業証書・学位記(学士)が西野学長から授与されました。式終了後、午後4時30分から、愛学館1階の学生食堂で教職員を交えた京薬会主催の「卒業記念祝賀会」が開催されました。

また、卒業式に先立ち、同日3時より博士後期課程秋季入学式が行われました。

人 事

退職

2006. 6. 27付

薬品分析学教室 教授 北村 桂介

2006. 8. 25付

教務部入試課 課長 梅原 紘一

任命

2006. 6. 28付

情報処理教育研究センター長事務取扱
学長 西野 武志

昇任

2006. 10. 1付

病院薬学教室 講師 高良 恒史

配置換

2006. 9. 1付

教務部入試課 課長 山下 豊彦

称号授与

2006. 6. 28付

名誉教授 北村 桂介

京薬会だより

今年度の支部総会は、4月の奈良支部から12月の滋賀支部まで全国18支部で開催されます。

※支部に転勤してきた若い人が出席してくれるのは嬉しいものです。いずれ又、転勤でその支部を離れる日が来ると思いますが・・・。

※地元の先輩達、特にMRにとっては、支部総会は仕事に役立つ「ニュースソース」です。

(各支部長談)

<今後の予定>

10月 1日(日) 京都支部(京都東急ホテル)

10月 8日(日) 九州沖縄合同
(博多グリーンホテル)

10月15日(日) 山口支部
(下関グランドホテル)

10月22日(日) 島根支部
(サンラポーむらくも)

10月29日(日) 愛知支部(頤和園)

11月12日(日) 鳥取支部
(倉吉シティーホール)

11月19日(日) 徳島支部(グランドパレス)

11月26日(日) 岡山支部(えきまえミヨシノ)

12月 3日(日) 滋賀支部(愛学館食堂)

<公開講座>

本年度は、10月21日(土)午後1時より本学にて開催されます。

<テント寄贈>

学生支援の一環として、テント一式を寄贈しました。学園祭、駅伝大会等必要に応じて活用してください。